

Q12 出荷の方法は？

農産物を出荷する方法には、個人出荷と共同出荷とがあります。

共同出荷

生産地から消費地までの距離が遠く、生産者が直接消費地へ出荷できない地方では、農業協同組合や生産者組合などが、個々の農家の生産物を集荷し、規格を統一したものを大量に消費地へ出荷している場合があります。この方法を共同出荷と呼んでいます。なお、この方法は、運賃その他の出荷にかかる経費を節減し、市場での販売価格を優位に運ぶ点では、各個ばらばらで出荷する個人出荷より有利になる場合が多いといえます。

個人出荷

一方、消費地に近い産地では、生産者が直接市場に出荷する方法があります。こちらは、一般的に生産物が小口で、計画性のある出荷は困難ですが、市場の動向にいち早く対応できるメリットや、生産物の鮮度が落ちにくいので高値に販売できる利点もあります。

市場対応

市場の現状は、仲介業者の取引きがしだいに大口化し、生産物規格がそろっているほど有利なため、生産者に対して大量安定供給、規格の徹底などを要求し、大産地を優遇する傾向が強まっています。したがって、生産者は、市場側の評価を得ようと、単品目の生産に集中し、出荷量の安定化を図り、選別規格を厳しくするなどの努力を強いられています。

